

講義コード	1520220000
講義名称	国際関係論A <春>
科目英文名	International Relations A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2410
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
松村 昌廣

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	<p>※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。</p> <p>その他</p> <p>なし</p>
---------------	--

講義・演習概要	ウクライナ戦争、第四次台湾海峡危機、食糧・エネルギー危機など、急激に大きな変化を見せる現在の国際関係を体系的に理解するために、具体的な事例を取り上げながら、ベーシックなことから積み上げて、お話しします。本講義は理論の講義ですが、初めて国際関係論を学ぶ学部学生を念頭に、難解にならないように図やメモを使って丁寧な説明を心がけます。なお、より具体的な個別の国際情勢に関心のある学生は、映像資料を駆使する「国際政治事情研究A・B」を受講してください。
学習（到達）目標	毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明もありません。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係の理解に必要な理論的な思考とは何か、主要な理論にはどのようなものがあるかに焦点を絞って説明します。また、刻一刻と変化する時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	導入 1-1) 国際関係論と国際関係における日本
第2回	1-2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解
第3回	1-3) 社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論 (1) 現実主義 VS 理想主義
第4回	1-3) (2) 伝統主義 VS 科学主義
第5回	1-3) (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義
第6回	1-3) (4) まとめ
第7回	総論 2-1) 基本的捉え方 (1) 現実主義
第8回	2-1) (2) 多元主義
第9回	2-1) (3) グローバリズム
第10回	2-1) (4) まとめ

第11回	2-2) 分析のレベル (1) 政策決定システム
第12回	2-2) (2) 国家システム
第13回	2-2) (3)国際システム
第14回	2-2) (4)まとめ
第15回	総括

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	講師が設定した問題と手順で、講義で扱った内容を基に論述式の持ち帰りのレポート試験（3000字～4000字）の作成・提出を求めます。十分な時間（恐らく週末を含め7～10日以上）を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	ポール・R・ピオテ イ、マーク・V・ウェ ッセルズ	国際関係論 - 現実主 義・多元主義・グローバ リズム			彩流社	（絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる）

参考文献	E・H・カー『危機の20年』（岩波文庫） モーゲンソー『国際政治』（福村出版） シューマン『国際政治』（東京大学出版会）
事前および事後学習の指示	講義に合わせて、テキストの該当部分を予習・復習で読解すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1530830000
講義名称	文化人類学B <春>
科目英文名	Cultural Anthropology B
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	ANTH3410
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
小池 誠

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査（フィールドワーク）、研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では宗教と儀礼を中心テーマに取り上げます。とくにイスラームと、インドネシア東部のスンバ島の儀礼、日本の神道と祭を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思えます。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。
学習（到達）目標	講義をとおして、以下の3つの目標を達成できるようにします。 ① 文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。 ② 文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げた事例について自分の考えを述べることができる。 ③ 講義で学んだことを正確にまとめ、それについて自分の意見を述べるができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業ガイダンス：文化人類学の宗教研究
第2回	宗教研究とフィールドワーク
第3回	神とイスラーム
第4回	イスラームの暦と礼拝
第5回	グローバル化するムスリムとモスク
第6回	インドネシア・スンバのマラブと大祭
第7回	インドネシア・スンバの家屋と儀礼
第8回	インドネシア・スンバの死者儀礼と巨石墓
第9回	日本の仏教
第10回	日本の神道と伊勢神宮
第11回	日本の靈魂観と葬送
第12回	日本の神社と祭
第13回	日本の祭：神事としての天神祭
第14回	日本の祭：風流としての天神祭
第15回	講義のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	36%
レポート	25%
その他	39%

成績評価の方法（コメント）	試験は授業内容に関する小テスト（3点）を計12回実施する（計36点） レポートは中間レポート（10点）および最終レポート（15点）の計2回実施する（計25点）。 その他は3回の小レポート（3点）と毎回の授業中に書くコメントシート（2点）によって授業への積極的な参加度を評価する（計39点） 出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中にコメントシートを書いてください。
---------------	--

参考文献	小池誠、2005、『東インドネシアの家社会—スンバの親族と儀礼』晃洋書房 山下晋司編、2005、『文化人類学入門』弘文堂 関一敏・大塚和夫編、2004、『宗教人類学入門』弘文堂 このほか、講義のテーマに応じて授業中に参考図書を紹介する。
事前および事後学習の指示	次回の授業までに読んでおくべき授業資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください（事前学習）。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する資料などを積極的に読むようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	異文化・宗教・儀礼・神道・祭

講義コード	15D1130000
講義名称	デジタル・メディア論 <春>
科目英文名	Digital Media Studies
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC3500
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
木島 由晶

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	情報通信技術の恩恵にあずからない人は、まずいないだろう。アフリカの片田舎にもケータイ電話が普及している昨今である。しかもそれはほんの短い時間に達成されてきたから、私たちはついつい、何かものすごい「革命」が立て続けに起こっているのだと期待してしまう。しかし、それで一喜一憂しているようでは大学生として心もとない。そこでこの授業では、すぐに判断をくだしたくなる気持ちをぐっとこらえ、まずは、現象をじっくりと眺める「観照」の姿勢を滋養したい。新しいものがすぐに古びてみえるこの世の中で、落ち着いて考える力をはぐくむこと。それはもちろん、時流に流されずに生きていく力を育むことでもある。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none">・主観的な感情と区別し、客観的に対象を考察できる。・社会学的な概念を適切に用いて、現象を考察できる。・授業中の説明を、具体的な例に当てはめて考察できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	みんなの意見は案外正しい？
第3回	個人に最適化する情報
第4回	ケアからセキュリティへ
第5回	個人の監視からデータの監視へ
第6回	匿名性と仮想空間
第7回	キャッシュレスと信用スコア
第8回	現実に虚構を重ね
第9回	ゲームで現実と関わる
第10回	二次元とどこまで恋愛できるか
第11回	ヴァーチャルなペットの癒し
第12回	ソシャゲが基本無料な理由
第13回	グローバル化とガラパゴス化
第14回	テレビの視聴から動画の視聴へ
第15回	まとめとふり返り

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	その他は平常点であり、授業後のコメントシート（400字程度）で理解度をはかる。学期末には、2000字程度のレポート課題を課す。
---------------	---

参考文献	木島由晶（2025）『好みに満ちてゆく社会——聴く・遊ぶ・愛でる・移動する文化の社会学』勁草書房。その他、講義中に提示する。
事前および事後学習の指示	学んだ内容を忘れてしまう前に、その日の内容を復習することを大切にしてほしい。講義は前に学んだ内容をふまえながら進めていくので、復習することがそのまま予習につながる。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	スマートフォン、キャッシュレス、動画視聴、監視社会、ヴァーチャル・リアリティ

【社会人の方へ】学生が興味を持てるよう、若者向けの内容となっております。悪しからずご了承ください。

講義コード	1A10120000
講義名称	世界の市民-科学と社会の関係を考える <春>
科目英文名	World Citizen-Science and Civilization in East Asia
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
尾鍋 智子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	<p>※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。</p> <p>その他</p> <p>なし</p>
---------------	--

講義・演習概要	<p>本学の教育目標である世界市民とは何かを考えるにあたり、本講義ではまず日本文化を理解し客観化することからはじめる。例として江戸時代の科学者をあつかい、彼らを通して科学が文化から文化へ伝わる時、社会や文化の相違により受容されたり、されなかったり、変化したりする様子を探る。江戸の科学や技術の発展、和算、医術、天文暦学、測量などにかかわる科学技術と社会の関係を、日本に視点をおき考察をくわえ、多文化理解へのゲートウェイとする。</p>
学習（到達）目標	<p>江戸時代の科学・技術の歴史から、日本文化をより深く理解でき、世界市民的視野をもつことができる。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	コース説明及びイントロダクション 江戸の科学者について
第2回	関流をめぐる人々
第3回	本草から大和本草へ
第4回	本草から博物学へ
第5回	日本暦の誕生
第6回	町人天文学者たち
第7回	測地事業の推進
第8回	まとめと試験 1（論述試験1000字）
第9回	蘭学の始祖
第10回	異端の科学者
第11回	電気学の正統
第12回	最初の自然哲学者
第13回	自然哲学の展開者
第14回	通訳から科学者へ
第15回	まとめと試験 2（論述試験1000字）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	<p>2回の本格的論述試験(各1000字程度)で成績が決まるため、あらかじめ段落を適切に用いた論述の訓練をし、書き慣れておくことがのぞましい。詳細については初回に説明するので必ず出席すること。</p> <p>毎回出席が原則。5回以上欠席すると評価の対象外となる。ただし公認欠席は除く。15分以上の遅刻を3回した場合1回の欠席としてカウントする。</p>
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	吉田光邦	江戸の科学者	大学オンライン販売	978-4-06-525058-7	講談社学術文庫	学生は初回の授業までに必ず教科書を入手すること

事前および事後学習の指示	教科書を授業前後に読み、予習復習をすること。（事前学習30時間 ・事後学習30時間）
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	科学技術、江戸時代の科学、天文、和算

講義コード	1C00170001
講義名称	文学 [2] -説話文学を中心に 01<春>
科目英文名	Literature – Focusing on Folktales
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	LANG1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
南郷 晃子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	「説話」とは、口承（口伝え）や書承（書いて伝えられること）で伝えられた、短い話とされます。すなわち、あるモチーフや物語の構造が受け継がれていくのです。説話世界は現代にまで続く、世界認識の一部を作っています。この講義ではそのような説話の世界へと、古文を味わいながら没入しようと思います。説話を中心にしますが、神話や歌舞伎などからも関連する要素を読み込み、多様な作品に触れる場にします。基本的には少し「不思議」な物語を扱い、宗教的・文化的な背景についても学んでいきます。日本の古典文学作品を扱います。
学習（到達）目標	まずは古文の読解に馴染みを持つ。そのうえで説話についての知見を得るとともに、説話を通じて、日本の社会文化の基層について見通しを持つことができるようになる。最終的には得た知見を通じて、日本文化について構造的に捉えることができるようになることを目指す。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	記紀神話の世界：はじまりの物語
第3回	風土記の世界：出雲国風土記
第4回	日本霊異記の世界：祭祀と説話
第5回	今昔物語集：鬼と人と京都
第6回	宇治拾遺物語：昔話と説話
第7回	平家物語：語り物文芸の世界
第8回	太平記：「歴史」を考える
第9回	御伽草子の世界
第10回	近世説話の世界－諸国百物語から
第11回	版本のインパクトと妖怪
第12回	近世演芸をみる：歌舞伎、浄瑠璃
第13回	古典文学と近代文学：再創作を考える
第14回	古典とアダプテーション：アニメ、ポップミュージックから
第15回	まとめとテスト

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	<p>◎試験は記述式を中心に行います。</p> <p>◎「その他」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト2回 1回10%×2回→20% ・毎授業で行う復習課題→30% ・授業内求めるコメントを授業評価において参照することがあります。 <p>※小テストは抜き打ちで行います。ChatGPTなど生成AIの利用が認められた場合は点数をつけません。5回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。こちらで指示したとき以外で携帯電話を触っている場合は授業を履修する意思がないものとみなします。</p>
---------------	---

参考文献	小峯和明『説話の森 中世の天狗からインソップまで』（岩波現代文庫、2001年）、兵藤裕己『王権と物語』（岩波現代文庫、2010年）
事前および事後学習の指示	授業で配布したレジュメを使い復習をすること。また授業内で紹介する関連文献を読むこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1P66220002
講義名称	生涯スポーツ論<春>
科目英文名	Life Sports
開講責任部署	
代表ナンバリングコード	000GE118
単位数	2.0
時間割	春学期: 木曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
上田 真也

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスポーツ活動を通じて、自分の健康の維持・増進の方法について学ぶ。 ・運動の必要性について、体感する。 ・生涯にわたってスポーツを楽しむ意義について、理解を深める。
授業概要	スポーツを通じて、性別、年齢を超えた“楽しみ”や“遊び”を感じることは重要なことである。生涯を通じて身体を動かすことの喜びや爽快感、達成感を味わえ、コミュニケーションづくりや心身のバランス等をもたらしてくれる。それが生涯スポーツの魅力といえる。本講義では、さまざまな運動やスポーツを通じ、生涯にわたって健康を維持・増進していくことの重要性を感じ取ってもらいたい。
授業計画	第1回 本講義の目的、授業の進め方について 第2回 発育発達期の運動プログラム（1）（乳幼児） 第3回 発育発達期の運動プログラム（2）（小学校） 第4回 発育発達期の運動プログラム（3）（中学・高等学校） 第5回 社会とスポーツ（1） 第6回 社会とスポーツ（2） 第7回 中高年者とスポーツ（1） 第8回 中高年者とスポーツ（1） 第9回 女性とスポーツ（1） 第10回 女性とスポーツ（2） 第11回 障がい者とスポーツ（1） 第12回 障がい者とスポーツ（2） 第13回 介護予防と運動（1） 第14回 介護予防と運動（2） 第15回 生涯にわたる運動づくり
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	適宜、紹介する。
評価方法	授業態度…10% ミニレポート（毎時提出する。授業内容に対する理解度を評価する）…20% テスト…70%
既修条件	なし